

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

.....

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	火災原因調査時に、地中にある浄化槽の天板を踏み抜き片足を負傷した事例
3. 体験した事例の中心的要素	夜間の土木作業現場でショベルカーが火災になり、火災原因調査のため写真撮影をしていたところ、地中にある浄化槽の天板上に土砂が積もり浄化槽の存在に気が付かず、さらにショベルカーでの整地後であるために浄化槽の天板にひびが入っていたことが、本事例の踏み抜きの主たる要因である。
4. 体験した事例の原因・理由	・ 安全管理の不在 ・ 照明の不足 ・ 足下の注意不足 ・ 装備の不備

【体験した事例の直接的原因について】

.....

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

.....

1. 発生日時	平成 16 年 8 月 15 日 午後 10 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：建物を解体し、整地中の建設予定地
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	踏み抜き、
7. 事例体験時の活動	火災原因調査、 [車両]
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	その他：火災原因調査の為、現場の写真撮影時
9. 同様の体験は、これまでにどの 程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[27]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6]年、階級[消防士]、同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	地中にある浄化槽の天板上に土砂が積もり浄化槽の存在に気が付かず、踏み抜き左足を負傷したもの	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

○事故の場合 ：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。集中力、注意力がなかった。個人装備が不適切だった。周囲の視界が確保できなかった。足元の安全が確保できていなかった。現場周辺の地理がわからなかった。その他：

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：照明器具の不足

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

災害現場では、危険要素が必ずある事を常に再確認し、危険予測する知識を訓練、研修会等で習得する。

○装備・資機材の対策について

大腿部を負傷したことから、上衣のみであった防火衣を上下式とした。
消防本部全体で実施

○活動環境の対策について

有効な照明の活用を心がける。
飯塚消防署で実施

○指揮・情報伝達の対策について

--

事故発生状況



現場は、建物を解体し整地中の建設予定地



事故後、危険排除のため
足場を敷く

A 隊員が踏み抜いた
浄化槽の天板位置



踏み抜きにより、左足大腿部を負傷する。